



自治行政局選挙部政治資金課
政党助成室課長補佐

中野 賀枝子 NAKANO Kaeko

平成 23年 4月 総務省採用
同 自治財政局交付税課
8月 長野県総務部市町村課
平成 24年 8月 総務省消防庁国民保護・防災部防災課国民保護室
平成 25年 7月 同 消防庁総務課
平成 26年 4月 同 自治財政局地方債課
平成 27年 7月 同 自治財政局地方債課収益事業係長
平成 28年 6月 仙台市まちづくり政策局政策企画部プロジェクト推進課長
平成 30年 7月 復興庁統括官付参事官付参事官補佐
平成 31年 4月 総務省政治資金適正化委員会事務局参事官補佐
令和 2年 4月 現職

しなやかに生き、 より良い社会を目指す

民主政治を支える

私は、現在、政党助成制度を所管する部署で勤務しています。毎年、人口に250円を乗じて得た額を基準として予算で定める総額(令和3年:約318億円)を、政党交付金として各政党へ配分して交付し、その用途を公表しています。日本は国民が主権を持つ民主主義国家であり、選挙によって国民から選ばれた議員が所属する政党への助成やその用途の公表を正確に行うことは、民主政治にとって重要な意義があると、日々の業務に、身が引き締まる思いを抱き、やりがいを感じています。

仕事も育児も前向きに

今の職場には、育休明けで復帰しました。朝、子どもに元気よく手を振られ、駅に向かいながら、仕事モードに切り替え、今日の職場での段取りを考えつつ通勤しています。子どものお迎えがあるため、これまで以上に効率的な仕事の進め方を意識し、実践しながらそのノウハウを身につけることができています。働き方改革が進む中、テレワークや時短勤務など

は、制度的に担保されるだけでなく、それらに実際に活用すべきだという「空気」が職場において醸成されたように感じます。こうした環境変化は、仕事と育児の両立をリアルに考えさせ、私自身の背中を押してくれています。また、育休中と比較して、子どもと接する時間は限られますが、その分、子育てにメリハリがついていると思います。このように、仕事と育児、どちらにもプラスの面はあり、そのことを前向きに捉え、家族や職場の方々に支えられながら、引き続き、仕事も育児もしなやかに対応していきたいと考えています。

地方自治体の活躍のその先に

これまで、国と地方自治体で刺激的な経験をしてきました。中でも仙台市では、災害に強いまちづくりや郊外住宅の持続性確保など生活に密着した地域課題の解決のため、役所内外の関係者との調整に奔走する毎日でした。行政だけでなく、事業者、大学、金融機関などとタッグを組み、地域のために施策を進める経験は、自分自身が鍛えられる貴重なものでした。生活を支えるために必要な多くの分野を一

手に引き受け、住民と直接向き合っているのが地方自治体です。地方自治体が主役として活躍できるよう、制度面と現場の運用面双方で支えることが、その先にある多くの住民の生活を支えることにつながると信じ、今後も職務に邁進したいです。

国や地方自治体など多様な経験を通して、自らの人間力を育てる機会を得ながら、人々の生活、そして社会がより良くなる方策を追求することができる総務省で、皆さんも一緒に働いてみませんか。



息子と公園にて

私の基礎となる場所

「住民」や「地域」に資する人間でありたいという思いと幅広く「何でもやってみよう」という好奇心を胸に、私は総務省に入省しました。一方で、特定の業務に対する強い希望まではなく、それでも良いのだろうかという漠然とした不安もまた、感じていたように思います。その不安がクリアになったのは、入省4か月後に兵庫県庁へ地方赴任をしてからでした。

兵庫県では、1年目に県内市町の財政を、2年目に県の教育委員会の予算を担当し、「地域」の悩みは特定の分野に限定されたものではないこと、また、「住民」の思いは多様で、しかもただ座しては見えにくいことを実感しました。多角的な視点を養った上で、現場を一口に語ることなく、真に「住民」の思いを守りたいと感じたことは、間違いなく私の基礎となるものであったと思っています。

「日本のいま」がある場所

現在は、総務省の行政経営支援室という部署で、自治体の情報システムの標準化・共通化

を担当しています。

人口減少・高齢化が進む中で行政サービスの質を担保するためには、情報システムの標準化・共通化により、住民の利便性を向上させるサービス提供を全国に迅速に展開できること、各自治体が行政サービスの質を高めるための創意工夫に人的・財政的リソースを振り向けることができるようにすることが不可欠です。

国・地方のデジタル化については議論の真っ只中であり、「自治体」「事業者」等、それぞれに異なる事情がある中で、標準とすべきシステム形態や機能を含め、技術的・経済的・制度的な観点からの検討が必要です。各方面から絶えず流れ込んでくる情報から、自らのキャリアパスやプライベートで培われた価値観も背景に、何を基に検討するかを判断・集約し、それを制度として落とし込んでいく難しさに、この仕事の更なる奥深さを感じているところです。

ときめきを見つけられる場所

兵庫県への地方赴任、地方創生、公務員行

政、そして先述のデジタル化と様々な業務に携わる機会に恵まれ、入省当時の「何でもやってみよう」という希望が早くも実現しているように感じています。

私は、平日頃、人生にはときめきが重要なあとぼやいている節がありますが、個人的な趣味はもちろん、総務省での仕事においても、至る所にとときめきポイントが用意されていると思っています。住民・地域のためという思いがあり、何でもやりたい欲張りな方には、おすすめの仕事です。



お世話になった兵庫県の皆さんが開催してくださったさよなら会にて。

地域のために欲張りに

自治行政局市町村課行政経営支援室主査

高野 奈穂 TAKANO Nao

平成 28年 4月 総務省採用
同 自治行政局選挙部管理課
併任 大臣官房秘書課
8月 兵庫県企画県民部企画財政局市町振興課
平成 29年 4月 同 企画県民部企画財政局財政課
平成 30年 4月 総務省大臣官房秘書課
併任 内閣官房副長官補付
命 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局局員
併任 内閣府本府地方創生推進室室員
併任 地方創生推進事務局参事官(地域再生担当)付
併任 地方創生推進事務局参事官(総括担当)付
併任 地方創生推進事務局参事官(地方大学・産業創生担当)付
令和 2年 4月 同 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室
7月 同 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室主査
9月 現職

